

2023年度上半期Guideline読者アンケート結果 ～人気記事ランキングと読者注目のトピック～

上半期読者アンケート結果報告 人気記事トップ3

早いもので2023年度も折り返しを迎えました。今年度は新課程も2年目となる年ですが、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行や、ChatGPTに代表される生成AIの急速な発展など、社会的にも大きな動きがありました。このような中で、読者の先生方はどのようなトピックに関心をお持ちだったのでしょうか。Guidelineの読者アンケート^(注1)の結果から、上半期で人気のあった記事を読者の先生方の感想とともにご紹介します。

第3位 現行課程最終学年の出願指導（7・8月号）

現行課程最後の入試に臨む今年度の高校3年生。次年度に新課程入試を控えていることから、例年以上に受験校の選択に不安を感じる可能性がある一方で、18歳人口減と大学入学定員の増加を背景に競争緩和も進んでいます。こうした状況での出願指導について、新課程入試での変更点や近年の入試動向を踏まえて、ポイントや指導方針を取材しました。

- ◆新課程前のさまざまな動きの中でどのようにしていけばいいか参考になった。
- ◆昨年度の国公立大入試の結果が予想以上に良かったので、今年はどうするか思案していたところに最終学年の指導のヒントをもらえた。

第2位 2023年度入試結果速報（4・5月号）

毎年、4・5月号に掲載している「入試結果速報」が第2位となりました。少子化と定員増が受験生の「追い風」になった2023年度入試。難関大や都市部の大学では志願者数を保ったものの、地方では国公立大も競争緩和が目立つようになりました。この特集では、大学入学

共通テストの概況と、2023年3月10日時点で判明している国公立大と私立大の志願状況について、レポートしました。

- ◆4・5月号で早速入試の振り返りをしていただけるのはありがたいです。
- ◆毎回前年度の入試結果のまとめをいち早く行っており、意味深く読ませてもらっています。大変参考になります。

第1位 観点別評価を振り返る（7・8月号）

上半期読者アンケートの第1位に輝いたのは、「観点別評価を振り返る」でした。観点別評価は、過去に数回取り上げていますが、依然として不安や課題が多く聞かれます。7・8月号では、観点別評価の本格導入から1年を経て、実際に評価を行って見えてきた方向性や課題などについて、ヒアリングやアンケートをもとに紹介、さまざまな工夫を行う3校の事例を掲載しました。

- ◆各高等学校とも試行錯誤があることがよくわかった。
- ◆昨年度から導入され、学期末ごとに作業が増え苦労しており、各校の取り組みが大いに参考となりました。

読者が注目するトピックは？

入試・教育に関する語のほか、ChatGPTなども

読者の先生方は、どのようなトピックに関心をお持ちなのでしょうか。読者アンケートの中から、今後、Guidelineで読みたい記事や、高校教育・大学教育・大学入試についてご関心のあるテーマに関する記述を分析しました<図>。

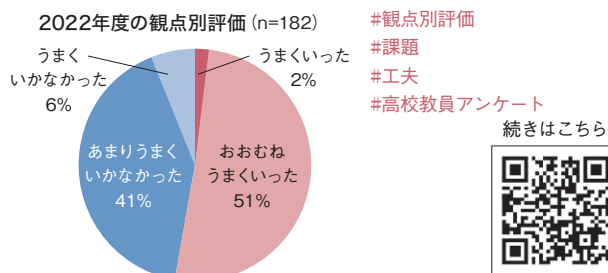
上半期にGuidelineの誌面で取り上げた「観点別評価」や「共通テスト」「入試」「アントレプレナーシップ」「ChatGPT」などの語が並ぶほか、「総合型選抜」「ICT」「キャリア教育」「探究」などの語も目立ちました。

(注1) 2023年度上半期Guideline読者アンケート… 2023年7・8月にWeb調査を実施。有効回答数110件。

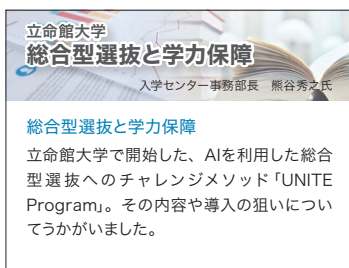


- ◆観点別評価については、入試に反映するかを含めてレポートを続けていただきたい。ChatGPTについての記事は今後の楽しみである。
- ◆共通テストについて（特に「情報」に関わること）
- ◆ChatGPTが教育活動に与える影響についてもっと知りたい。
- ◆難関大の学校推薦型・総合型選抜に関して、地方の高校がどう向き合っていくのか。
- ◆国公立大学の学校推薦選抜および総合型選抜において、大学側が採点・得点で重視すること。特に、プレゼンテーション型面接や集団面接では、受験生のこういった所に着目しているのか。資格や、文化的活動の経歴はどの程度重視されるのか。
- ◆ICT活用、教科指導に於ける探究活動

- 2022年度の観点別評価は「うまくいった」「いかなかった」が拮抗
- 9割以上の高校教員が課題を実感
- 観点別評価の工夫を具体的に紹介



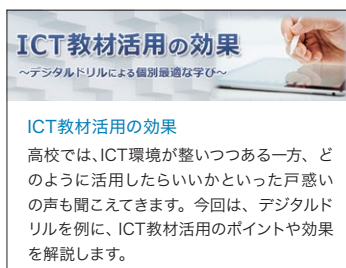
- AI教材の修得認定試験により基礎学力を担保
- 入学後に必要な学びを単元レベルで明示
- 高いモチベーションと基礎学力を兼ね備えた学生が入学



- ChatGPTは、ゴールではなくスタートやプロセスで使用
- ChatGPTのログから、生徒の活動や思考が可視化
- まず、先入観を持たず触ってみることが大切



- 学習場面や目的に応じたICT活用が重要
- デジタルドリル（AIドリル）で、個別最適な学びを実現
- 多数の先生方が生徒の理解度向上や学習意欲向上を実感



Kawaijuku Guideline 2023.10・11 23